

FPまつもと通信

ちょっと得する「資産形成」や「お金」の話題をお届けします。

ご挨拶

爽やかな風が吹き抜け、新緑が目には鮮やかな季節となりました。

過ごしやすい気候ですが、実は5月は紫外線が急激に強くなる時期です（油断しがちですが、すでに真夏に迫る強さです）。日傘や日焼け止めなどで早めの対策を始めましょう。

また、今年の夏も全国的に厳しい猛暑になる見込みです。本格的な夏を迎える前に意識したいのが「暑気順化（しょきじゅんか）」。ウォーキングなどの軽い運動や入浴で汗をかき、体を暑さに慣れさせておくことが熱中症予防に繋がります。

紫外線対策も暑気順化も、ダメージを受ける前の準備が肝心です。体調管理にお気をつけてお過ごしください。



今月号のちょっと気になるお金のコラム

今年の世界長者番付の1位は2年連続テスラのイーロン・マスク氏でした。その額はなんと132兆円、一人で日本の国家予算以上です。

国民負担率45.7%

財務省は今年3月、2026年度の国民負担率が45.7%になるとの見通しを公表しました。国民負担率とは、税金と社会保険料を合わせた公的負担が国民所得に占める割合のことです。つまり、稼いだお金の半分近くが、手元に入る前に差し引かれる計算です。下図は国民負担率の推移を表しています。



1970年代は25%前後でしたが、少子高齢化による社会保障費の膨張と、バブル崩壊後の長期的な所得の伸び悩みに加え、消費税の導入・引き上げにより大きく上昇しました。2025年度以降は小幅低下傾向にありますが、構造的な問題は変わっていません。だからこそ、手元に残る「約54%」の使い方が大切になります。

適切な金融商品を活用して資産を育てる、住宅ローンの返済計画を金利上昇に備えて見直す、保険の役割分担を整理する——こうした一つひとつの積み重ねが、将来の安心につながります。公的な制度に頼るだけでなく、自分自身でライフプランを設計する時代が来ているのではないのでしょうか？



F P 松本相談センター
ファイナンシャルアドバイザー
媚山裕之

〒390-1702

長野県松本市梓川梓

856-26

0263-76-1250

090-8741-7358

h.kobiyama@fpmatsumoto.com



2012年から2015年までの3年間、社会保険労務士として「年金事務所における年金相談業務」に従事。そこで、数多くの“悲惨な老後の実態”を目の当たりにし、老後に向けた資産形成の必要性を痛感。

国(金融庁)が勧める、“確定拠出年金”や“NISA”を活用した「長期・分散・つみたて投資」を真面目に、地道に推進。クイズやゲームを活用した『資産形成セミナー』は「わかりやすく、ためになる！」と多くの受講者からご支持をいただいております。

確定拠出年金加入者のための資産運用ガイド

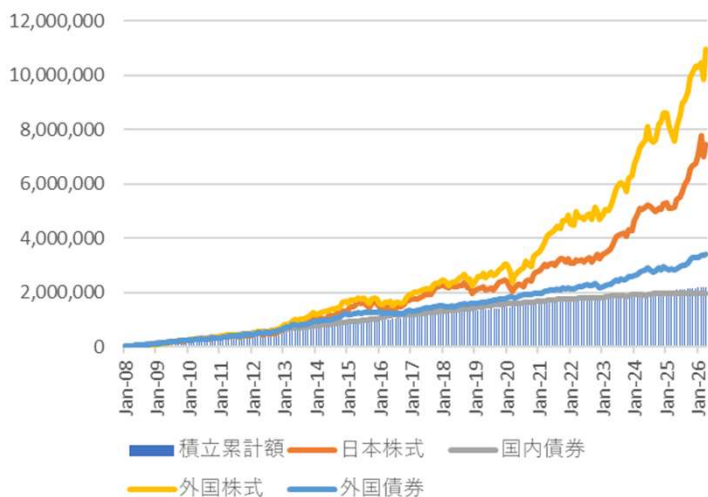
下図表は2008年1月から積立投資をした場合のシミュレーションです（MS社インデックスファンド基準価額データを利用）。図①は国内外の株式・債券の種類ごとの積立投資の推移を、図②は外国株式ファンドと外国債券ファンドに積立投資をした場合の積立開始時期による成果の違いを表しています。この2つのグラフを見ると、長期の積立投資で成果を得るためには以下が大切であることがわかります。

投資期間に応じた資産配分：積立期間が長い場合には株式の割合を多く、まとまった資金の受取予定が近い場合には株式の割合を少なくする

大幅に値下がりした場合：積立期間が十分にある場合は、株式への資産配分の増額、掛金の増額を検討する

長期継続する：値動きや値動きを解説するニュースに惑わされず長期継続する

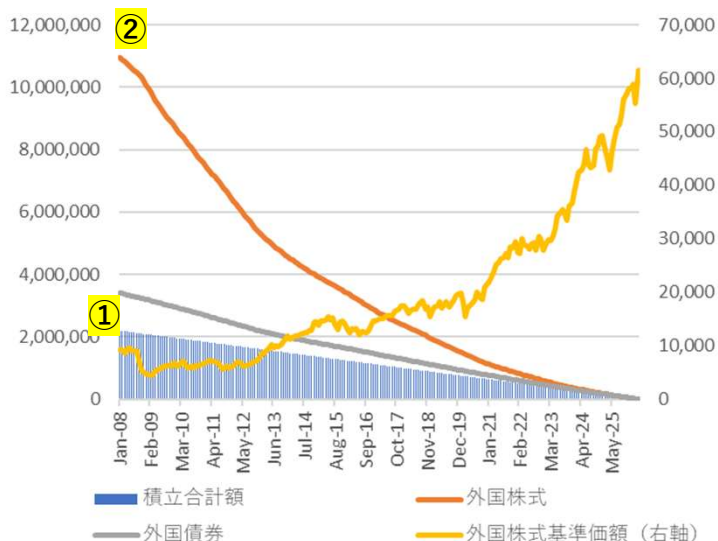
① アセットクラスごとの積立投資の推移



	Feb-26	Mar-26	Apr-26
積立累計額	2,180,000	2,190,000	2,200,000
日本株式	7,790,369	6,992,700	7,460,199
国内債券	1,979,614	1,952,889	1,949,930
外国株式	10,464,960	9,832,856	10,952,880
外国債券	3,362,595	3,351,632	3,405,806

2008年1月からの積立投資の推移です。株式は値動きは大きい一方値上がりも期待できません。債券は値動きは小さく値上がりも小さいことがわかります。従って長期の積立では株式をメインに、まとめて取崩す予定がある場合は株式の割合を少なくします。

② 積立開始時期ごとの積立合計と評価額



2008年1月に始めた外国株式への積立投資の合計額①220万円（青棒）は2026年4月に②1095万円（オレンジ線）、約4.97倍になりました。グラフの左の方は積立合計（青棒）に対して現在の評価額（オレンジ線）が大きく上の方に離れているのに対しグラフの右の方はその差が小さくなっています。つまり投資の成果は概ね積立期間に連動していると考えられます。

外国株式に10年（120万円）積立をした場合の最大値、最小値、平均値は以下になります。

最大	3,220,895	2016年5月	～	2026年4月
最小	1,747,373	2010年4月	～	2020年3月
平均	2,454,906	101		

確定拠出年金加入者のための資産運用ガイド

日経平均、一時6万円

	日経平均		NYダウ		ドル円
Feb-26	58,850.27	10.37%	48,977.92	0.17%	156.05
Mar-26	51,063.72	-13.23%	46,341.51	-5.38%	159.62
Apr-26	59,284.92	16.10%	49,652.14	7.14%	160.13

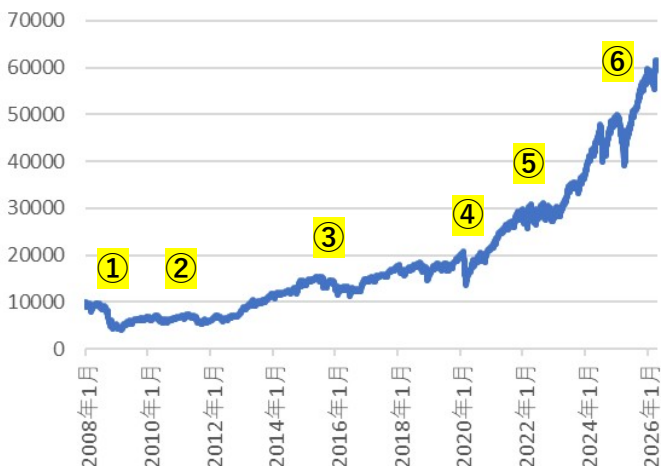
4月の株式市場は、中東情勢の不透明感が継続する中でも、日米ともに3月の急落から大幅に反発し、高値を更新する展開となりました。

市場回復の背景には、①懸念された原油の大規模な供給途絶の回避と価格安定、②米国大手テクノロジー企業のAI関連好決算による相場の牽引、③米国のインフレ鈍化に伴う利下げ期待の再燃、④日本での円安による輸出企業の業績改善期待、⑤機関投資家の押し目買いによる株価の下支え、などが指摘されています。

イラン情勢については依然として根本的な解決に至っていませんが（5月上旬現在）、市場の関心は地政学リスクから企業業績や金融政策の動向へとシフトしつつあり、当面は主要企業の決算発表や経済指標の内容に左右される展開が予想されています。

1000万円までの道のり

2008年1月から始めた下図のような値動きを示した外国株式ファンドへの毎月1万円の積立投資が、1000万円を上回ってきました。



しかしながら、その道のりは決して順風満帆だったわけではありません。2008年以降も以下のように頻りに株式市場を揺るがす出来事が起こっています。

- ① リーマンショック（2008年9月）
世界の金融システムが機能不全に陥り、世界同時株安と長期にわたる景気後退をもたらしました。
- ② 欧州債務危機（2010年～2012年）
南欧諸国の財政問題が連鎖的に表面化、ユーロの存続が危ぶまれる事態へと発展しました。
- ③ 英国EU離脱（2016年6月）
ポンドが歴史的急落を記録し、世界の株式市場が一時的にパニック状態に陥りました。
- ④ 新型コロナウイルス・パンデミック（2020年春）
世界各国の都市封鎖により実体経済が文字通り急停止し、S&P500は約1か月で35%下落しました。
- ⑤ ロシア・ウクライナ戦争（2022年2月24日）
経済制裁とサプライチェーン分断により、グローバル化の見直しを迫る転換点となりました。
- ⑥ トランプ関税ショック（2025年春）
景気後退、スタグフレーション、貿易戦争の拡大が懸念されました。

その都度ニュースではなぜ値下がりしているのか、いかに回復が困難かを報じますが、常に時間の経過とともに回復してきました。

それは株式市場を揺るがす出来事があっても企業は事業を継続し、それがいつかは企業価値の向上につながり、株価に反映されるからです。

今後またたび株式市場を揺るがす出来事が起こると思いますが、長期の積立投資では短期の値動きとそれを解説するニュースに惑わされずに継続することが大切だと思います。

ちょっと気になるお金のコラム

今年の世界長者番付 イーロン・マスク氏が2年連続1位、資産額は昨年比で約2.5倍に

先月、米国経済誌Forbes誌は2026年版世界長者番付を発表しました。1位は昨年に引き続きテスラ・スペースX・xAIを経営するイーロン・マスク氏で、資産額はなんと8,390億ドル（約132.6兆円）。2位はグーグル共同創業者のラリー・ページ氏の2,570億ドル（約40.6兆円）、3位は同じくグーグル共同創業者のセルゲイ・ブリン氏の2,370億ドル（約37.4兆円）でした。

順位	氏名	企業/国	億ドル	兆円
1	イーロン・マスク	テスラ/アメリカ	8390	132.56
2	ラリー・ページ	グーグル/アメリカ	2570	40.61
3	セルゲイ・ブリン	グーグル/アメリカ	2370	37.45
4	ジェフ・ベゾス	アマゾン/アメリカ	2240	35.39
5	マーク・ザッカーバーグ	フェイスブック/アメリカ	2220	35.08
6	ラリー・エリソン	オラクル/アメリカ	1900	30.02
7	ベルナール・アルノー	LVMH/フランス	1710	27.02
8	ジェンソン・ファン	エヌビディア/アメリカ	1540	24.33
9	ウォーレン・バフェット	バークシャー・ハサウェイ/アメリカ	1490	23.54
10	アマンシオ・オルテガ	ZARA/スペイン	1480	23.38

1位のイーロン・マスク氏の資産額8,390億ドルは、昨年1位だった際の3,420億ドルと比較しても約2.5倍という驚異的な増加です。昨年2位だったザッカーバーグ氏は5位に後退、2024年に1位だったベルナール・アルノー氏は7位に下落するなど、昨年からトップ10の顔ぶれにも変化が生じています。

10人の資産の合計は昨年の18,210億ドルから約1.20倍増の21,910億ドルとなりました。1ドル＝158円で計算すると約346兆円で、日本の国家予算（約122兆円）の約2.8年分、そして日本人全体の個人金融資産（約2,286兆円）の約15%に相当する規模です。日本人1億2千万人が持つ資産のおよそ7分の1を、たった10人が持っている計算になります。

ビリオネアの特徴は？

金額があまりにもかけ離れていて、自分たちとはまったく無関係に感じてしまうかもしれませんが、毎年こうして番付を眺めていると、彼らには共通したひとつのパターンがあることに気づきます。

それは、自ら創業した会社の株式を、長期にわたって大きな比率で持ち続けたという点です。親から莫大な遺産を受け継いだわけでも、株式売買を繰り返して利益を積み上げたわけでもありません。成長する事業のオーナーであり続けたことが、これほどの資産を生み出した源泉です。

もちろん、誰もが起業して成功できるわけではありませんし、成功の陰には多くの失敗もあります。またそこまでのリスクをとることが自分には向かない、と感じる方も多いのではないのでしょうか？

しかしながら視点を変えれば、適切な金融商品を利用することで成長企業の株式を「持ち続ける」ことを私たちでも実践することができます。

自分に合った商品や運用方法について気になる方は、ぜひお気軽にお問い合わせください。